

猿 橋
小学校

瑳玖良

瑳玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

三つの感染症

校長 澁谷 一 男

「先生方も大変ですね。」休校中、何名かの保護者の方からお声掛けをいただいた。度重なる臨時休校により、保護者の皆様には大変な負担をお掛けした。子どもたちだけでどう過ごさせるか、毎日のお昼ご飯をどうするか、保護者の皆様こそ「大変」であろうに…。それでもなお、学校を気遣ってくださるお気持ちが有り難く、頭の下がる思いだった。

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、感染者や医療現場に従事する方々への差別・偏見が問題となっている。県内の新聞でも4月下旬に、ある女性看護師の証言が取り上げられた。

「町内の回覧板を届けたとき、隣人は指先でつまむようにして受け取り、『ウイルスが怖いからこれからは来ないで。町内の会合にも来ないように、ご両親にも伝えなさい。』と言い放った。新型コロナウイルス患者とは直接関わらない診療科の担当だが、『こんな風に思われているのか。』と悔し涙が流れた。(以下略)」

あまりに心ない言動に、言葉を失った。怒りを通り越して、心底あきれられる思いだった。

日本赤十字社は、新型コロナウイルスが本当に怖いのは、「三つの感染症」という顔があることだと指摘する。一つ目は「病気そのもの」、二つ目は「不安と恐れ」、三つ目は「嫌悪・偏見・差別」である。未知のウイルスで分からないことが多いため、不安や恐れが生まれる。不安や恐れは人間の生き延びようとする本能を刺激する。そのため、ウイルス感染に関わる人や対象を差別し、遠ざけることで安心感を得ようとする。この負のスパイラルが、人と人との信頼関係や社会のつながりを破壊し、結果として感染症の拡散を増大させるというのだ。

子どもたちをこのような差別や偏見に巻き込むようなことがあってはならない。そのためには、私たち大人が正しい知識を得る努力をし、常に冷静に振る舞うことが大切だ。そして、こんな時だからこそ、相手を尊重する態度や寛容な心を大事にしたい。冒頭ご紹介した保護者のお言葉などは、相手に対する敬意と思いやりにあふれている。子どもたちは、私たち大人の姿を映す鏡のようなものだ。子どもたちには、大人としての責任ある後ろ姿をしっかりと見せたいものだ。

今週、2週間振りに学校が再開し、明るく元気な子どもたちの声が戻って来た。この尊い笑顔を守り抜くため、「三つの感染症」予防に全力を尽くしたい。

